

12・14「在寮期限」不当決定を忘れるな

# 極悪総長沢田

☆「在期」決定三周年弾劾！

全学のみなさん。本日12月14日がどういう日かご存じでしょうか？そうです、吉田寮の「在寮期限」が強行決定されたのが三年前の今日なのです。この「在寮期限」は、当事者であるわれわれ吉田寮自治会とは何の話し合いもないままに多数のゲバトル職員を動員して決定されました。また評議会では「老朽化」＝建て替えを唯一の理由として決定されたにもかかわらず次の日の記者会見では「正常化」＝自治寮潰しにすり替えられたという、実に許しがたいものです。われわれはこの12月14日という日を決して忘れることができません。

☆極悪総長沢田を  
絶対に許さないぞ！

ところで今日は、その「在寮期限」決定の張本人であり六年間もしぶとく総長の座に居座った沢田の退任の日でもあります。土木技師として旧日本軍に協力してC級戦犯になった彼はその後、教授→農学部長→学生部長→総長、と持ち前の団太さでトントン拍子に出世。京大において学生運動弾圧・管理強化を強力に推し進めました。

☆沢田……  
この悪行の数々を見よ！

78年4月に学生部長に就任した沢田はそれまで寮自治会と学生部長との話し合いで決定されてきた確約を破棄。度重なる団交にはふてぶてしい態度で臨みその本性をいよいよ本格的に現わし始めました。その悪の手腕を岡本前総長に買われて79年12月に総長に就任、ついに権力の座に就いたのです。その初仕事は前代未聞の立て看板撤去。また教養部構内の壁や柱にピラが貼れないようにザクロンを塗ったのも彼の指示によるものです。京大における言論弾圧はまさに沢田によって始められ沢田の下で進められたというわけです。

☆沢田による廃寮化攻撃を  
断固粉碎するぞ！

しかしその沢田の最大の仕事は何と言っても吉田寮の廃寮化攻撃でしょう。学生部次長に建本を自ら抜擢し沢田一建本の極悪コシビで数々の弾圧を行ってきました。「在寮期限」決定・負担区分強要・後任炊フ不補充、「正当な」手続きによる入寮届を出さなければ強行的な手段をとる、などの親許への恫喝文書送付、など沢田の下で行われた寮に対する攻撃は非常に重要な意味を持っています。その中でも5.18弾圧は寮闘争に対する最大の弾圧と言えるでしょう。83年4月15日の会計検査院の不当指摘への学生による抗議に対して、学生が時計台二階に上がったというだけで5月18日に数百の機動隊を吉田寮・熊野寮・本部構内に導入し、寮生八名を逮捕（その後五名を起訴）するという暴挙に出たのです。また最近ではわれわれの時計台前の座り込みに対し数十人の機動隊・公安刑事を自ら呼びテントを撤去する、などその行為は断じて許すことのできないものです。われわれは「在寮期限」を粉砕し新寮への寮生の移行を必ず克ち取るぞ！

本日正午より沢田の退庁式が時計台前で行われます。沢田は六年間住み慣れた総長室をあとにして時計台正面玄関から黒塗りの車に乗って京大から去って行きます。極悪総長沢田による学生弾圧・管理強化に反対するすべてのみなさん！本日正午、時計台前に結集し、沢田に対する抗議の渦を巻き起こそう！

☆12・19集会に結集しよう！

われわれ吉田寮自治会は来たる12月19日に全学集会を開きます。各学部の自治会および全学友との連帯をより確かなものとし、五項目要求・全評議員追及を貫徹し、学生部長との話し合いを実現するぞ！すべての学友は12月19日ひる1時、法経7番へ！われわれは闘うぞ！

# 吉田寮自治会

左京区吉田近衛町  
(075)751-4052

# 京大FOCUS

## 連載第5回

沢田紹重ノーベル賞を

かじ、本学総長沢田敏男先生の、あるいは、無類の正義感のゆゑで事件ですが、既に御承知のとおり被手駄は全國に並行して、全国が頭立ち下さい。抗議文をつきつけ人柄と人情味あふる性格は余事、若学生を一箇問題から叩き落し、学生教職員の信頼を一身に揺さぶるといふことをせず、研究者からおられます。

かじ、先生の物事に対する、絶にかねりつけ、「ヤギア」と積極的な態度は、未だ技师として断末魔の叫び声をあげ、のたらち旧日本軍に協力、不本意ながら、級戦犯になりながら、いじめられ、いた川端喜蔵につき出しましてばく戦機の混乱期に秉じて大学へ、返り直を企てに浴び、潤研磨者の地位を獲得され、アーヴィングに似たよがいに状況下子に、教授、学部長、学生部長、先生の形相に、さすがの聲長、総長と世の道を歩んだ事に、寡聞もなかまいが、遠まきにするも十分うかがわれます。

だけであつたと記憶ます。



澤田  
文部大臣殿

私、生まれも育ちも京都です。大文字山で産湯をつかい、姓は西田、名は太郎、人間ひと正直者の立派な人間です。一昔の風習ではござります。

最近かは、大學研究機関の困難、かくら如く、研究者あるが、文流にも尽力されており、また共知闘争から献金をいたたくなど、實業團にも余念がありません。先生の開拓した研究分野が、最近になりてよく発達しているが、良からぬ者が口を叩きますが、先生の大きなノーベル賞に御推進された。さうして、上記の陳述者と生の研究者としてのねむおおぎさん、ぐらじと、教官としての功績を認めます。(澤田)

京都府立大学新聞八二一年十一月一日より集

△